

令和 7 年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（教育ガバナンスコース）

I

問 1

（解答例）

慢性的な少子化がもたらす急激な人口減少により、日本の市町村の 40%以上がいずれ消滅する可能性がある。(50 字)

問 2

東京など都市部への人口流出を防ぐ対策。
近隣の市町村が若い人口を呼び込もうと競い合う。

問 3

（解答例）

これら対策は、地方自治体それぞれで人口が行き来しているだけであるから、日本全体では人口減少を変える効果を持っていない。また、出生率の向上にもつながっていない。(79 字)

問 4

（解答に含まれる内容の例）

①フランスにおける PACS(パックス)や、スウェーデンのサンボ、フィンランドの Avopari（アヴォパリ）等を参考に、婚姻制度を変える。これによって婚姻が手軽にできるようになり、出生率の向上が期待できる。

②若年層への幅広い減税を行い、収入の増加を図る。生活が安定すると婚姻が増え、結果として子どもが増える。

③海外からの移民の受け入れを広く行う。直接的に人口の減少を補うことができる。

II

問 1 ④・⑥

問 2

（解答例）女性らしい職業、男性らしい職業が存在するというアンコンシャス・バイアスにとらわれることで、個人の職業選択の幅が不当に狭まる。その場合、能力のある人が本来希望する職業に就くことが

できなくなり、個人の自己実現だけでなく多様な人材が能力を発揮することが阻害される。(129 文字)

問 3

(解答例) 親が自身の子どもに対して日頃から「男性なんだから」「女性なんだから」と言って接していると、子どもも「男性だから」「女性だから」と性別によって考えるようになり、職業選択に対してもアンコンシャス・バイアスをもつようになる恐れがあるだろう。そこで、母親の妊娠段階で行われる母親・父親教室でアンコンシャス・バイアスについて伝える場を設け、アンコンシャス・バイアスに関する知識や、自身のアンコンシャス・バイアスにもとづく声かけは子どもの可能性を狭めることになりかねない、と伝えることを提言する。(242 文字)